

# 日吉台新聞

HIYOSHIDAI

発行

日吉台学区  
まちづくりセンター

発行責任者  
林 堅太郎

編集責任者  
野々口 義信

日吉台学区  
個人情報保護方針  
取り扱い文書



学区ホームページ

## コロナ禍で今年の夏まつり、文化祭中止

自治連

学区自治連合会は5月15日開いた役員会で、今年開催を予定していた「夏まつり」と「文化祭」について、新型コロナウイルス感染症の問題が依然好転の兆しが見られないとして中止することを決めた。新型コロナを理由に「夏まつり実行委」「文化祭実行委」が、学区自治連合会に対し、令和3年度の開催中止を提言

学区自治連合会は5月15日開いた役員会で、今年開催を予定していた「夏まつり」と「文化祭」について、新型コロナウイルス感染症の問題が依然好転の兆しが見られないとして中止することを決めた。新型コロナを理由に「夏まつり実行委」「文化祭実行委」が、学区自治連合会に対し、令和3年度の開催中止を提言

### 開催あり方についても検討協議

実行委、大幅見直し提言

来年度以降

実行委では、今年の夏まつりと文化祭の中止提言について、変異ウイルスの感染拡大が強く関西3府県に緊急事態宣言が発出され、滋賀県内でも状況は深刻。日吉台には高齢者が多く地域行事は、安全、安心な環境で開催すべきである、など

理由を挙げている。  
夏まつりと文化祭の開催あり方検討については、

夏まつり実行委と文化祭実行委が昨春秋、夏祭り文化祭の合同開催を含む

めた開催時期や場所、イベント内容を大幅に見直す検討案を学区自治連合

## 出前講座で住民説明へ

### 立地適正化問題で、学区自治連合会決定

日吉台学区が居住誘導区域から外された大津市の立地適正化計画について、学区自治連合会は5月15日開いた役員会で、立地適正化計画について市の出前講座を開催、

手始めに自治連合会役員を対象に計画概要の説明を受け、質疑などを行うことを決めた。

月、大津市立地適正化計画を策定、公表した。この計画では、日吉台が地すべり防止区域だったことから法の除外規定で学区全体が居住誘導区域から外れ線引きされていた。

計画段階でこのことが判明、学区自治連合会が質問などを提出して、市の姿勢を質すとともに住民を対象にした説明会の開催などを働きかけてきた。

会に提言した。

この時の提言は、  
①夏まつりについては7月最終土曜日の従来の開催日を11月の第2土曜日に変更、日吉台小グラウンドで、模擬店、フリーマーケット、踊りなどの発表を行う。同日体育館では、毎年10月最終週末3日間、文化祭実行委が行っていた行事のうち展示イベントを切り離れた踊り、合唱、演奏等演技発表と体験教室、フリー

マーケットを開催する。  
②文化祭は、従来と同じ10月最終週末の3日間、日吉台市民センターで、変更後の夏まつりに組み込んだ踊り、合唱、演奏等演技発表と体験教室、フリーマーケットを除いた展示イベントに特化させて実施するというもの。見直し理由について、実行委は、最近の夏の異常高温による熱中症対策と子どもたちの参加しやすさを考え、暑い真夏の

開催をさせ、文化祭とあわせ「秋まつり・文化祭」として涼しい秋の開催を提案したという。  
この見直し案について、学区自治連合会は、各丁に対し、意見集約の検討を依頼、実行委が住民から出てきた意見を基に今年2月、①夏まつりと文化祭の合同開催は行わない②夏まつりは、8月第3土曜日の夏開催または11月第2土曜日の秋開催③文化祭は、10月最終週末の3日間、市民センターで開催する。駐車場にテナントを立てず、模擬店の出店は取りやめる。また、従来駐車場で行っていた屋外フリーマーケットは夏まつり会場の小学校グ

ラウンドで夏まつりと合同してもらうの修正を学区自治連合会に提案、意見を求めている。  
実行委は、学区自治連合会に対し今年度中の方向づけを求めている①酷暑が続く中今までの開催の日程で夏まつりの開催ができるのか。見直し案で合同開催は行わないと提言していることと矛盾②子どもたちの祭り参加

が減っている。打開策はあるのか。祭りの見直しも必要ではないのか③8丁自治会の一部に地域行事の手伝いが出来ないとの声がありこれまで両イベントを支えてきた実行委や参加者の負担が増える。この点を解決する道はあるのだろうかーなどの問題点を指摘している。

学区社会福祉協議会のボランティアグループ事業。平成11年2月に始まり、同小体育館周辺や校舎南側の学校園で、ふれあい農園グループの人たちが、子どもたちといっしょに野菜の種や苗の植え付けや管理、収穫などをしていく同小の伝統行事。

これに対し、市は、市民を対象に実施している出前講座に「都市計画マスタープランと立地適正化計画」を「熱心まちづくり出前講座」のメニューに追加。自治連合会に対し、出前講座として学区住民に説明する機会を設けることを通知してきた。

4月から5月にかけて、大津市内は、新型コロナウイルスの変異株による感染拡大期の真っただ中。自治連合会は、新型コロナウイルス感染拡大の懸念からこの出前講座については、できるだけ少人数の会合に絞り、時期は未定だがまず自治連合会役員を対象に開催。その後、各自治会での実施を考えている。市の出前講座は、10人程度の人が集まれば、自治会以外の団体主催での開催は可能だという。

## 大きく育てね

### 日吉台小ふれあい農園



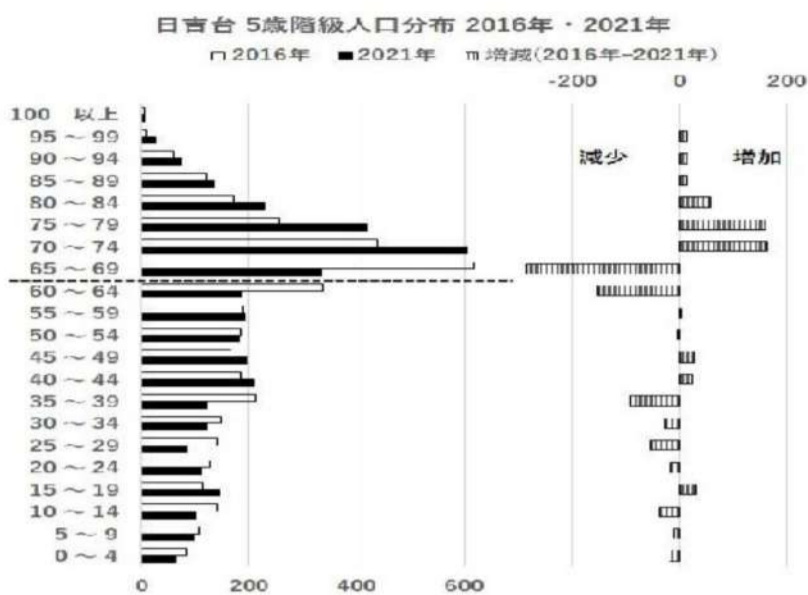
ふれあい農園で、サツマイモ苗の植え方を教わる1年生児童

「ふれあい農園」は、サツマイモ、ミニトマトなどの苗の植え付けを行っています。  
この日は、1年生17人がサツマイモ苗、2年生23人がミニトマト苗、つくし学級の児童3人がサツマイモ、ミニトマト、キュウリ苗などを植えた。このうち1年生の子どもたちは、校舎南側の学校園で、ふれあい農園のおじさんたちから、イモ苗の植え方、育て方などを習ったあと、一人1本ずつ苗をもらい、「大きく育てね」と願いを込めて丁寧に植えていた。

# 住民の半数が65歳以上

## 進む高齢化

## 市の人口統計結果



学区自治連合会事務局は、大津市が公表している人口統計をもとに日吉台学区の人口分析を行い、5月15日開催の自治連合会役員会で報告した。

（学区ホームページにも掲載）分析レポートによると、2021年、学区で65歳以上の高齢者が占める高齢者率は、5年前の比較で6.1%も上昇50.2%となり、人口の半分以上を突破、逆に15歳以下の子どもの数は66人減少、学区の少子高齢化現象がさらに進行していることが人口統計の数字から裏付けられた。

学区の総人口は、16年、3801人、21年は3632人で169人減少。人口の5歳階級別人口分布を見ると、65歳以上の人口は16年は1678人、高齢化率44.1%に対し21年は1824人、高齢化率50.2%と人口の半数以上が高齢者となっている。これに対し15歳未満の子どもの人口は、16年326人（8.6%）だったものが21年には、260人（7.2%）に減った。

5歳階級の人口比較では、70歳台以上で増加、60から64歳台、65歳台から69歳台で減少が顕著。これまで地域のコミュニティ活動の中心を担ってきた住宅開発時期に入居したピーク世代が高齢化するとともに運動会や夏まつりのターゲット世代である15歳未満の子どもの数が減っており、担い手不足や少子化が、学区の運動会や夏まつり等、イベントや行事開催運営議論の背景にもなっている。階級別転出入人口では、70歳以上で、高齢者用施設への入所や死亡などによる人口減が、この5年間で185人あり、今後もこの傾向は加速すると分析している。



テントなどを使い上流部に追い込み捕獲する3西の自主防災会員（上）。山に放たれる子鹿（下）

# 子鹿救出劇

## 高橋川上流に迷い込む



学区内を流れる高橋川上流部河川敷で5月19日昼、子鹿1頭が迷い込み、助けを求め鳴いているのを付

が見つけた。日吉台支所からの連絡で、地元3丁目西自主防災会（岸本善春会長）の岸本会長ら5人がかけつけ、子鹿の救出に動した。現場の高橋川は、両サイドがコンクリート擁壁、上流部にも高さ1メートルのコンクリート製の段差があり、河川敷に迷い込んだ子鹿が脱出できなくなっていた。

岸本さんらは、テントやシートなどを使い、上流部に追い込み捕獲した。体長約70センチ前後、この春生まれの子鹿。捕獲後、近くの山に放たれた。

## 至明こども園に木工作品寄贈 能面作家の吹田さん



今春開園した日吉台至明こども園の子どもたちに3丁目東在住の能面作家、吹田静雲さんが、手造りの動物の組木パズルなどの木工作品をプレゼント、5月20日吹田さんが同園を訪れ、西川義法副園長に贈呈した写真。

組木パズルや、輪投げ、動物かるたほか、大きな盤の上に木工の動物を組み立てるものなど、頭を使っているような遊び方ができる吹田さんが本職の能面制作のかたわら造りあげた木工作品。同園は開園したばかりで西川副園長は「ぬくもりを感じる玩具。子どもに楽しんでもらえら」と喜んでいました。

## 機材を使い初清掃奉仕

### 老ク連

### 安全確保はかりビブスも着用

学区老人クラブ連合会（野々口義信会長）は、4月30日、日吉台市民センター周辺街路で、大阪ガス福祉財団の助成を受け購入した草刈り機、電動バリカンなどの機材を活用した清掃奉仕を行った。



電動バリカンを使い、ビブスを初着用して清掃奉仕する老ク連会員

学区老人クラブ連合会は、年間を通じ老ク連加盟の4老人クラブの協力をを受け、学区内の清掃奉仕作業を続けている。近年参加者の高齢化が進行し、ホウキや鎌などを使う作業に限界を感じる参加者が多くなりはじめ、少しでも作業軽減になればと、機械化、省力化を検討、大阪ガスの助成制度を利用して電動式、エンジン式草刈り機、電動バリカン、チェンソーなどを購入した。

4月16日に予定したが、当日はあいにくの雨天もようとなり、30日に順延。老ク連では今年度、街路での奉仕活動の安全確保と活動のPRをはかるため明るいオレンジ色の地に「日吉台老ク連」の文字を入れたベスト状のビブスを購入、作業時に着用することにしておりこの日機材初使用にあわせビブスの初披露となった。あざやかに目立つビブスを着用した参加者らは、電動バリカンなどを使い、市民センター敷地内の樹木の刈り込みや街路の除草などに汗を流した。老ク連担当者は「機材の使用は奉仕作業に威力。ビブス着用は、街路での交通事故防止にも役立つ」と話しており、次回は市民センター西側の樹木の刈り込みと清掃を予定している。